



今年は記録的な猛暑続きの長い長い夏でしたが、あっという間に秋も深まり、一気に冬が近づいている感じがしますね。猛暑の影響は人間だけでなく、自然界全体にも及んでいます。暑さで野菜や果物の生育が良くなかったり、カメムシが10年に一度と言われるほど大量発生していたりもします。また、山ではドングリが凶作のため、クマが冬を前にエサを求めて人里や市街地まで下りてきている状況が全国各地で見られています。人間も自然の中の一部だと感じますね。

今月の礼拝

単元5: 神の子イエス②

📖…お話 🎵…奏楽

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4～中学生) 9:00～9:30	プレイ・タイム (小学生／中学生) 9:35～9:55	こどもれいはい (幼児～小3) 10:00～10:20
11月5日	安息日の主	ルカ福音書 6:1-11	📖 武岡 基 🎵 武岡路実	(フリーマーケット準備) クリスマスに向けて	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ
11月12日 子ども祝福式	十二弟子を選ぶ	マルコ福音書 3:13-19	📖 安達正樹牧師 🎵 堤 砂里奈	クリスマスに向けて (アドベントカレンダー)	📖 安達正樹牧師 🎵 堤 砂里奈
11月19日	百人隊長の しもべの癒し	ルカ福音書 7:1-10	📖 堤 砂里奈 🎵 安達いづみ	クリスマスに向けて (アドベントカレンダー)	📖 武岡 基 🎵 安達いづみ
11月26日 収穫感謝日	ファリサイ派の人と 罪深い女	ルカ福音書 7:36-50	📖 武岡路実 🎵 堤 砂里奈	クリスマスに向けて (オーナメント作り)	📖 安達いづみ 🎵 武岡路実

子ども祝福式

11月12日 (日) 10:30～ (大人の礼拝始まりの時間に行います)

大人の礼拝の中で「子ども祝福式」を守ります。これは、教会に集う子どもたちの健やかな成長を教会員全体で祈ると共に、子どもたちが神さまからの祝福を受ける式です。

いつもの朝の礼拝もありますが、出席できる人は引き続き大人の礼拝へも出席してください。

収穫感謝礼拝

11月26日 (日)

いつもどおりのティーンズ礼拝・こどもれいはいで

野菜や果物を持ち寄り、神さまからの恵みに感謝します。



CSクリスマス礼拝・祝会

12月17日 (日) 13:30～15:00 〈詳細は次月号にて〉

金城学院高等学校キャラバン隊のみなさんによる人形劇が今年もやって来ます♪

今年は、これまで教会に来たことのないお友だちも誘って参加してもらってもいいですよ。

でも人形劇は小さい子向けであることはお友だちに伝えてね。

今月の聖句

あなたがたがわたしを選んだのではない。わたしがあなたがたを選んだ。

(ヨハネ 15:16)

今月のさんびか♪

こどもさんびか 7 (イエスさま きょうもわたしを)



10月に続き、今月の礼拝は「イエスさまの歩み」を学びます。今月は特にイエスさまと関わった人物について注目してみましょう。

今月のさんびか「イエスさま きょうもわたしを」は、『こどもさんびか改訂版』(2002) のための公募作品の中から採用されました。

作詞・作曲者の松原葉子さん(1973-) は富山県に生まれ、15歳から教会での礼拝奏楽に携わりました。教会音楽の学びを志してフェリス女学院大学音楽学部楽理学科へ進み、オルガン、作曲、音楽学を学ばれました。卒業後、日本基督教団富山鹿島町教会のオルガニストとして奉仕しています。各地でリードオルガンやパイプオルガンの演奏を行い、教会での礼拝奏楽をテーマにしたCDもリリースしています。

幼少期より進行性の難病とともに生きてきましたが、2017年1月、肺炎から呼吸不全を起こして救急搬送され、以後、気管切開・人工呼吸器装着となりました。命の危機からの奇跡的な回復を与えられ、今日に至っています。現在は「富山県リハビリテーション病院・こども支援センター」療養介護棟に入院(入所)中です。音楽事務所 OFFICE ARCHES に所属、プロフィールなどはホームページ (<https://www.officearches.com/artist/yoko-matsubara/>) にあります。Facebook (Grace Arts /Yoko Matsubara) では病院の院長先生とのピアノ連弾の様子などがアップされています。

1節だけの歌詞ですが、イエスさまは私を「呼んでくださる」「励ましてくださる」のです。私たちが「呼んでください」「励ましてください」と祈らなくても、イエスさまは私たちに呼びかけ、励ましてくださるのです。それは私たちが気づかないところであっても、私たちがイエスさまのことを忘れていたとしても、いつでも私たちに愛を注いでいてくださるということです。

「恐れることはない。ただ信じなさい。」(マルコ5:36、ルカ8:50) とのイエスさまの呼びかけに、松原さんご自身が日々励まされ、生かされている中で、自然と促されるようにして生まれた賛美歌です。「軽やかに口ずさみ、歌いながら、“今日もイエスさまがともにいてくださる”ことを、その喜びを、日ごとに新たにしていけることができますように」との願いが込められています。

これまで歌ったことのない賛美歌ですが、歌いやすく覚えやすい賛美歌ですので、ぜひ口ずさんでみてください。いくつか登場する休符は「休み」ではなく、その一瞬でイエスさまからの呼びかけやまなざしを感じることができると、この賛美歌に広がりが生れます。

がたんじょうびおめでとう🍰

11月生まれのお友だち

ハロウィンってキリスト教?!

近年は日本でもハロウィン(Halloween)が定着してきました。アメリカのテーマパークの影響だとも言われています。「アメリカのもの」＝「キリスト教のもの」と思われがちですが、ハロウィンはキリスト教の影響を多少受けているものの、実はキリスト教から発生した行事ではないのです。もともとは古代ケルト人(現代ではアイルランドやスコットランドなどにケルト系の民族が多い)の風習です。彼らは宗教的には自然崇拝で、この10月31日には収穫を感謝すると共に、先祖の霊が家族を訪ねてやって来る(日本で考えると「お盆」と考えられていました。その後、古代ローマ文化やキリスト教などヨーロッパの様々な文化の影響を受けました。キリスト教的には、カトリックでは11月1日が「諸聖人の日(古くは「万聖節」)」として大切な日であり、プロテスタントでは10月31日は「宗教改革記念日」であるので、いずれもキリスト教の教会ではこのハロウィンを受け入れることはしませんでした。アメリカへ移住した当初の人たちの多くはプロテスタント(ピューリタンなど)の人たちだったので、アメリカ移住が始まった頃にはアメリカでもハロウィンはありませんでした。19世紀にアイルランドやスコットランドからの移住が多くなりアメリカへもハロウィンが“輸出”され、その後、次第にアメリカ全土へと広まっていったのでした。今でもアメリカの厳格なキリスト教の地域や学校では「ハロウィンを行わないように」と通達が出るところもあるそうです。